

会 議 録

会議の名称	第4回 機種選定委員会																
開催日時	平成20年11月21日（金） 10:00～12:30																
開催場所	芳賀地区広域行政センター 3階 研修室																
公開の可否	一部非公開																
非公開理由	公正に機種の評価を行うとともに、円滑な審議を行うため、「評価方法の検討（評価方法、評価項目、評価項目の重み付け等）」については、非公開とする。																
出席委員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">栗原英隆（委員長）</td> <td style="width: 50%;">高野貞夫（委員）</td> </tr> <tr> <td>吉川博（副委員長）</td> <td>高野芳徳（委員）</td> </tr> <tr> <td>小川秀一（委員）</td> <td>永山富夫（委員）</td> </tr> <tr> <td>菊井豊（委員）</td> <td>橋本皓朗（委員）</td> </tr> <tr> <td>小久保行雄（委員）</td> <td>星光徳（委員）</td> </tr> <tr> <td>笹島希一（委員）</td> <td>柳昭示（委員）</td> </tr> <tr> <td>佐藤良夫（委員）</td> <td>谷畑泰彦（委員）</td> </tr> <tr> <td>塩田進（委員）</td> <td></td> </tr> </table>	栗原英隆（委員長）	高野貞夫（委員）	吉川博（副委員長）	高野芳徳（委員）	小川秀一（委員）	永山富夫（委員）	菊井豊（委員）	橋本皓朗（委員）	小久保行雄（委員）	星光徳（委員）	笹島希一（委員）	柳昭示（委員）	佐藤良夫（委員）	谷畑泰彦（委員）	塩田進（委員）	
栗原英隆（委員長）	高野貞夫（委員）																
吉川博（副委員長）	高野芳徳（委員）																
小川秀一（委員）	永山富夫（委員）																
菊井豊（委員）	橋本皓朗（委員）																
小久保行雄（委員）	星光徳（委員）																
笹島希一（委員）	柳昭示（委員）																
佐藤良夫（委員）	谷畑泰彦（委員）																
塩田進（委員）																	
会議の議題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回委員会の会議録について ・ ヒアリング調査について ・ 調査対象企業の選定について ・ 評価方法の検討について（非公開） 																
配布資料	<p>【資料1】 新ごみ処理施設に係る技術調査説明書（案）</p> <p>【資料2】 「新ごみ処理施設に係る技術調査」の調査対象企業の選定について</p> <p>【資料3】 評価方法の検討（案）</p> <p>【資料4】 機種選定委員会のスケジュール</p>																

■ 第3回委員会の会議録について

事務局より第3回会議録の内容について確認を行い、内容が了承された。

■ ヒアリング調査について

事務局より、「【資料1】新ごみ処理施設に係る技術調査説明書（案）」について説明。

委員長：種類組成もごみピットから採取した分析値ですか。

事務局：はい。

委員長：この地域は、厨芥類等の自家処理をやっている傾向があるのですか。

事務局：芳賀町においては家庭系、事業系の生ごみ、畜産糞尿を堆肥化しているドンカメなどがあり、町、企業等が生ごみを搬入しています。また、茂木町においても、美土里館があり、町が一部中心地の生ごみを収集して堆肥化を行っており、2町においてはかなりの成果があがっています。また、他の地域におきましてもEM菌等を利用した堆肥化、1市5町におきましてもコンポスト容器、生ごみの機械式処理器に対する補助等を出しておりますので、家庭においても積極的に生ごみのコンポスト化が図られているという背景があります。

委員長：一般的には、厨芥類が30%～40%含まれていますが、事務局より説明があったように住民の方々が個別に処理をすることで少なくなっているということです。

委員長：計画年間処理量32,000tに対して、し尿汚泥及びし渣、下水汚泥が全体の10%程度含まれておりますので、低位発熱量が一般的なものよりも少し低いのかなというように思います。一般的な考え方ですが、高質ごみの低位発熱量が低質ごみの低位発熱量に対し2.5倍以内におさまれば良いのですが、今回は2倍弱となっておりますので、発熱量が低いながらも設計する側から考えると適切な設計が行えるものと思います。

委員長：みなさんからのご意見もないようですので、事務局から説明のあった内容で了承することにします。

■ 調査対象企業の選定について

事務局より、「【資料2】「新ごみ処理施設に係る技術調査」の調査対象企業の選定について」について説明。

委員長：芳賀地区に適した機種を選定を行うにあたって、各機種の評価を行うもととなるデータを徴取するメーカーを選定し、資料提出の協力をお願いすることになります。

A委員：施設の発注行為とは直接関係がないということではよろしいのですか。

委員長：発注行為とは直接関係はありません。

A委員：今回の技術調査を行うために各企業に対して費用を支払わなければならないという

ことはないのですか。

委員長 : 今回の技術調査では各調査対象企業に技術資料の提供をお願いするため、費用は各調査対象企業が負担します。

A委員 : 調査対象企業は受注実績の多い上位2社ということで良いと思います。

委員長 : 辞退する企業があった場合には、順位を繰り下げていかなければならないと思います。今回は、ストーカ炉+灰溶融炉方式、シャフト炉式ガス化溶融方式、流動床式ガス化溶融方式、キルン式ガス化溶融方式、ガス改質式ガス化溶融方式の5機種から検討を進めることになっております。しかし、これまでの受注実績をみるとガス改質式ガス化溶融方式は最近の導入事例はないので、今回の調査対象に含めるかどうかということがあります。

委員長 : 一委員の意見としては、ガス改質式ガス化溶融方式は、最近の導入実績、対応できる企業が1社のみであるということとこの段階で調査対象企業から除外するという事も考えられるかと思えます。また、委員の皆様が先進地視察で見学されたキルン式ガス化溶融方式についても最近の導入実績を考慮すると少ないこと等から、調査対象から除外してもよろしいのかと思えます。

B委員 : 実績のない方式や芳賀郡にそぐわない方式については除外してはどうかと思えます。

C委員 : この段階で絞り込んで、より詳細な検討を行えるようにした方がよいと思えます。

委員長 : 調査対象企業側も資料作成等に費用のかかることですので、協力依頼をお願いしたとしても、全ての企業が協力してもらえるかどうかは分かりません。

D委員 : 調査対象企業の指名停止等は、今回の技術調査に影響がありますか。

委員長 : 国や都道府県、市町村で指名停止が出ていても、技術調査の資料提出には支障は無いと思えます。

委員長 : 他に事務局から追加説明はございますか。

事務局 : はい。先ほど、委員長からもお話しがありましたが、各調査対象企業が技術資料を作成するために費用を要するというのは、調査説明書の提出様式にありますような詳細な検討を行う際には、各企業の技術者がコンピューターによる計算等の検討を行うことになり、ただ単に回答するというわけではなく、時間と費用を要するということになるようです。また、現在では、各企業ともそれだけの余裕が無くなってきているようで、必ずしも全ての企業から回答を得られない可能性があるようです。

委員長 : 実際の評価においては、機種ごとに2社から徴取したデータを平均して当該機種のデータとし評価を行っていくことになるかと思えます。シャフト炉式ガス化溶融方式の場合は、受注実績の多い上位2社とそれ以降の企業とでは補助燃料など同一機種でもタイプが異なります。異なるタイプのものを平均して評価を行うことはいかなものかと思えますので、シャフト炉式ガス化溶融方式については、受注実績の多い上位2社に依頼をし、いずれか一方が辞退した場合でも、順位を繰り下げない方がよろしいかと思えます。

- E委員 : 今日、この場で調査対象企業を選定するというところでよろしいでしょうか。
- 委員長 : はい。スケジュールを考慮すると、この場で調査対象企業を選定した方が良いと思います。
- E委員 : 先進地視察、最近の受注実績を考慮して、この段階で機種を絞り込んでいくことが良いと思います。
- 委員長 : 現在5つの方式がありますが、今回は新たに施設を整備するものであり、安定的に稼動する方式を選定していく必要があることから、受注実績の少ない方式は除外し、ストーカ炉+灰溶融炉方式、シャフト炉式ガス化溶融方式、流動床式ガス化溶融方式の3方式で機種の評価を行っていくことでよろしいかと思えます。
- 事務局 : 視察研修をしていないガス改質式ガス化溶融方式について、簡単な説明を行ってもよろしいでしょうか。
- 委員長 : どうぞ。
- 事務局 : それでは、広報第3号にて簡単な説明をさせていただきます。ガス化改質方式は、ごみが左側のプッシャーから入りごみを圧縮した上で、外部から加熱をします。その際に、可燃ガスが取り出されるのですが、その可燃ガスを精製して燃料として使用することになります。ガスを取り出した後のごみは高温で燃焼溶融して溶融スラグを生成します。この方式の特徴としては、ガス精製をするため排ガスの急冷等で非常に多くの水を要すること、排ガスを水で洗浄するので煙突から排出される排ガスが少なくなることが挙げられます。
- B委員 : 5機種で検討を進めてきましたが、この段階でストーカ炉+灰溶融炉方式、シャフト炉式ガス化溶融方式、流動床式ガス化溶融方式に絞り込み、今後より詳細な検討を行えるようにした方がよいと思います。
- 委員長 : わかりました。それでは、キルン式ガス化溶融方式、ガス改質式ガス化溶融方式は除外し、ストーカ炉+灰溶融炉方式、シャフト炉式ガス化溶融方式、流動床式ガス化溶融方式の3方式で今後の検討を進めていくということでよろしいでしょうか。
- 委員 : 異議なし。

■ 評価方法の検討について

非公開。

■ その他

- 委員長 : 今回予定していました内容については全て協議しました。次回は、評価の視点となりますが、事前に資料をお目通し頂ければ、スムーズな審議が行えるかとも思いますので宜しくお願い致します。
- 委員長 : 第5回委員会の日程ですが、1月の中旬から下旬ということですが、1月20日13時30分でいかがでしょうか。
- 委員 : 異議なし。

- 委員長 : 場所は、事務局より後日改めてご連絡することになるかと思います。
- 委員長 : 次回の委員会の公開／非公開についてですが、今回は評価の視点を協議しますので、非公開ということではいかがでしょうか。
- 委員 : 異議なし。
- 委員長 : その他いかがでしょうか。
- F委員 : 資料3については、本日の審議を踏まえた資料を後日送付頂けるということでよろしいでしょうか。
- 事務局 : 送付致します。
- 事務局 : 資料3については、機種の評価に係わるものですので、資料の取扱いは慎重にお願いしたいと考えております。
- 委員長 : それでは、本日本日予定しておりました検討事項は全て終了致しましたので、これで第4回機種選定委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。

以 上